



平成27年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰受賞団体

センスオブアース・市民による自然共生バンゲア からのお知らせ

グリーンフェスタ2016に出店しました

紙芝居“いもむしのたからぶくろ”“原っぱのかくれんぼ”

を読み聞かせ 東京家政大学・宮地ゼミ3年生が参加しました

4月17日(日)◎会場 板橋区立赤塚植物園



センスオブアースは11年間、板橋区内343個ある公園を身近な自然と仲よくなる場所として、また、緑を守る最後の砦としての位置づけで、公園を活用した環境学習を広めてきました。

今回、板橋区の緑と公園課からの呼びかけで、17日の最終日に出店。

あいにくの風と雨の天気になりましたが、室内での展示と、紙芝居の読み聞かせをしました。また、笹の葉による笹笛作り他（東京家政大学・家政学部教授 佐藤秀文氏

のご指導）、縄文飾りづくり（成増社会教育指導員杉浦さん等ご指導）なども一緒に体験しました。



グリーンフェスタは、緑を大切にする心と行動を広く啓発し、区民参加のまちづくりを推進するために毎年行われており、今年で16回目。会場の赤塚植物園は、丘陵地を生かして作られた植物園で、約10,000平方メートルの敷地に600種以上の樹木や草花が植えられており、周辺の区立美術館や郷土資料館と併せて“自然と歴史と文化の里・赤塚”の人気スポットとして親しまれている。（板橋区緑と公園課 ホームページより）

板橋区（区全域）みどり率の分布◎5年に一度の航空写真調査

みどり率：公園＋公園以外の緑被地＋公園以外の水面

みどり率は東京都の設定で、河などの水面と

公園内の緑ではない面積を加えたもの。

緑被率は加えないもの。

| | (平成26年) | (21年比) |
|--------------|---------|----------|
| みどり率 | 24.2% | ← 0.7%上昇 |
| 緑被率 | 20.3% | ← 1.0%上昇 |
| 植生被覆率(空から見た) | 18.3% | ← 1%下降 |

(上からの赤外線撮影のため、屋上緑化は入る。草のない裸地は入らない、工事予定地の草は入る)



《みどり率対象面分布図》

第16回アースデイいのちの森 ～明治神宮～ 4月23・24日



青く晴れた空の下、明治神宮 神職の方々の演奏する雅楽で開会。座っている芝生の暖かい感触が心地よいです。来場者は親子連れ、ボーイスカウトなど子どもたちが多く、特に、SOEブースは圧倒的。一番人気はかざぐるま作り。口々に作りたいとのリクエストを受け、子どもたちのエネルギーに圧倒されながら色とりどりのかざぐるまをつくり教え続けました。子どもたちは就学時前の年齢が多く、うまく作れた時のうれしそうなおこと。



とても人気であつという間に売り切れ。未だ教えてほしいという声に惜しまれながら、終了。反省点は講師の準備不足、材料不足。何より、「風となかよし」の紙芝居が上演できなかったこと。

次回は、「紙芝居と風車教室のSOE」の店を出店してもいい感じでした。



江戸の郷 代々木ネイチャークラブ



2日目最後の踊り～「風祭り音頭」で命のつながりを表現



エコツーリズムによるコットン糸つむぎ体験

明治神宮の森には豊かな生態系が育つ～ヤマガラ



スタッフのみなさん、お疲れ様でした～



初めて笹笛を吹く学生たち



《グリーンフェスタ 2016 に参加した学生たちの声》

- ◆子どもたちがわかってくれるか心配でしたが、とても真剣に聞いてくれてうれしかったです。
- ◇小学生の時、紙芝居が大好きでよく借りて読みました。今、子どもたちに紙芝居を読んであげる側になったんだと思って、とても感動しました。
- ◆子どもたちの目が、まっすぐで私達を見てくれていたので、驚きとうれしさなどで、新鮮でした。
- ◇あまり上手に読めなかったのですが、子どもたちがよく聞いてくれたので、助けてもらった感じです。



学生にレクチャーする SOE 北野事務局長と指導者の宮地孝宜先生

- ◆初めて、紙芝居を読んであげる側になり、子どもたちの目が真剣で、ドキドキしながらもどうにかやれました。
- ◇生きものの気持ちになることがなかったので、私達も紙芝居の中身に興味を持ちました。

今年度、参加した家政大学3年生たちは、自ら、環境学習に参加しながら、学習プログラムを作成する側にも参加していく予定です。作った紙芝居をもって、保育園や学校へ出かけ、子どもたちへ働きかけていくことでしょう。その成長が楽しみな学生たちでした。



2016年農業編～今年は国際豆年 目指せ！本格的な地産地消のみそ造り (11月26日土予定)

& コットンの糸つむぎ(10～11月) 大豆とコットン(木綿)を植えました。

大豆種を植えたみんなの笑顔



肥料をまき、畝づくりをするSOE寺島将人



コットンを植える、SOE池田朱里

4月29日 GW の始めの日、やや強い春風がふく午後、畑に、肥料を入れて、大豆とコットンを直播しました。

野菜も、ニンジン、ピーマン、大根などを植えました。これまでも、野菜は育ててきましたが、コットンと大豆は初めてです。

心配なのは、水枯れと、カラスなどに種を食べられてしまうことです。それは、運を天に任せて、別の場所でも、苗を育てていくことにしました。補充用です。

今年の収穫を大地に祈りました。

一言メモ

国際豆年とは 第68回国際連合総会で、2016年を豆年に決定したものです。

国際豆年の具体的な目標

- ★持続可能な食料生産と健康的な食生活におけるマメの重要な役割、またマメの食料安全保障や栄養への貢献について意識を高める
- ★フードシステム全般にわたるマメの価値や利用を増進するとともに、土壌の肥沃化や地球温暖化対策、栄養不良対策におけるマメの利点の活用を促進する
- ★フードチェーン全般にわたり、マメの世界的な生産の促進、学術研究の強化育成、輪作のより良い活用、マメ貿易における課題に取り組むための関係醸成を奨励する

豆は、 ○栄養素バランスをとることに役立つ ○ビタミンが豊富 ○各種ミネラルをまとめて供給 ○食物繊維が豊富 ○ポリフェノールの効果に期待

◎環境にやさしい作物～なぜ、国連が決定をされたのかを考えると健康面以外に農業面では窒素成分の循環の関係で、環境にやさしい持続可能な農業を展開できる作物であることから世界的に大切な食品

発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6052
e-mail: info@npo-soe.jp url: npo-soe.jp